美浦村青年（茨城県）

元気で雪の横越村へ

横越村青年団と交流

去る二月三日、朝六時、美浦村の青年五二名（内、女性一七名）引率者四名が、寒い新潟駅に到着しました。

当村の青年約二〇名余が駅にでむかえ、再会を喜びあいました。

さっそく新潟市青年の家で朝食、その後観光バスに乗って市内見学、北方文化博物館、水原の白鳥を見てまわりました。

お昼に公民館到着、昼食後さっそく歓迎会を催しました。

村長、議長、教育委員長、連青団長の歓迎のあいさつの後、美浦の業績教育長があいさつをされました。歓迎会の中で、横越下の神楽を舞ってもらいました。舞い手は今の団員です。美浦村の青年はとても熱心に見ていました。そして終った時はすばらしい拍手を送ってくれました。

夜は各地域で、地域ごとの交流会が行なわれました。

二日目は公民館で四ツの分科会に別れて話合いをしました。女子問題と、青年団の財源についての意見交換をしました。美浦も横越にも共通していることは、女子団員が少ない、財源が足りないということです。又女子についてはアハウスやフリータイムで、いついっても使える施設が作られれば、青少年はあつまってくるのではないか。いま、日曜日が休みでない職場に努めている人がかなりいるので日曜の行事が思うように実施できない、ということです。

又年令については、二十四才位になるとほとんど退団していくのでなか〳〵リーダーが育ってこない、ということです。

分科会のまとめとして、助言者の神田勝郎氏（横越）は「デンマークや、スイスには青少年のための施設がどんどんできている、でも施設を使う時金を払って使っている。そこで日本でも、オープンで、青年は一人前になるための有余期間なので、甘い構造もあるようだが、ルールを守って施設を使えば、行政は答えてくれるのではないか」というような感想を述べてくれました。

二日目夜は各家庭交流をするということでした。

三日目は公民館で歓送会を行いました。こゝで、美浦村青年会長から美浦の木「梅の木」が送られました。あいにく雪のため植えられませんが春になったら移植したいと思っています。

いまゝで何回も交流会をしておりますが、雪がこんなにたくさんふり、又寒かったのは、はじめてのことだそうです。

短い、あわただしい交流会でした。が美浦青年は、三〇名余の横越青年に見送られて新潟駅から遠ざかっていきました。

第三分科会　財源の確保についての討論

公民館結婚を改善

経費は総額で八、三〇〇円に

前より一、三五〇円アップ

公民館結婚が年々派手になっている。なんとかいゝ方法はないものか、この問題について公民館運営審議委員と料理、お菓子業者がいっしょになって討議をしました。

多くの意見がでましたがこれであればお互いに守られるのではないかということで、結論に達しました。勿論次の経費以下であってもよいわけです。きまったことについておしらしします。

会費は六、〇〇〇円

四月から実施

○料理　三、五〇〇円
○式菓子　二、〇〇〇円
○引出物　二、〇〇〇円（但し
○もりかご二、〇〇〇円）

このなかゝら一品だけはずす。

○赤飯　三〇〇円
○酒、飲物　五〇〇円

酒はこのほか、もらったものを使用してよい。

○合計八、三〇〇円（一、三五〇円アップ）
○会費六、〇〇〇円（四月から実施）
○花嫁のお色直しは一回限りとする。
○男のお色直ししはしない。

今迄は公民館の経費については公民館できめていましたが、今回は業者からも意見をだしてもらいました。そこで今回決めたようであれば互に守れる、ということになりました。これは四月から実施しますが、みんなで守って、明るい村づくりにしたいものです。

※　※　※

忙しさの中にも一服の味を

小杉婦人学級で茶道を学ぶ

小杉婦人学級では去る一月二十九日、年間学習計画の一つとして「茶道について」の学習会を行いました。

講師は佐藤君子先生と佐藤スイ先生にお願いして、学級生でもある山崎志枝子さんには正客を努めて頂き、場所も

茶の湯について初歩から学ぶ学級生

いつもの分館では気分がのらない……と法愃寺の茶室をお借りして一日たっぷりと茶の湯について、その初歩からを学びました。日頃忙しさにおいたてられている、学級生の皆さんもこの一日ばかりは、何もかも忘れていわゆる「お茶の心」を学びとらんと一生懸命でした。

忙しさの中にもこの一服のお茶を飲む、お手前をけいこするここにおちついた閑寂があり、物の美しさ、心の豊かさ、美しさを、よびもどしてくれるのではないだろうか。

「茶の湯」の歴史をたどってみると、その昔平安時代、貴族や僧侶等の間に覚醒剤、あるいは趣味的なものとして好まれたものが始まりであると云う。そして戦国時代、堺の町人手利休によって、いわゆる「侘茶」の風尚は大成され、後長らく継承され、今日の「和敬清寂」を旨とする茶の湯の考い方の基本とされるに至っておると云う。

「水を運び、薪をとり、湯をわかし、茶をたてて、仏に供え、人にも施し、吾も飲み、花をたて、香をたく」と説いた初代利休の心を、もっと学び理解を深め、大切にしていくことが、今の私達には必要なのではないかと痛切に感じた一日でした。

小杉分館だより

大丸杯（村上）バスケットボール大会

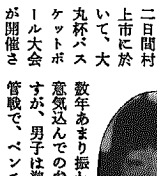
横門ク女子二位、男子三位入賞す

優秀選手に阿部明美、加藤久美子選手

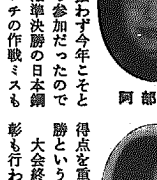
去る二月十一、十二日の二日間村上市に於いて、大丸杯バスケットボール大会が開催され、我横門クラブも男子、女子共に出場しました。

過去に三年連続優勝したこともあるのですが、ここ数年あまり振わず今年こそと意気込んでの参加だったのですが、男子は準決勝の日本鋼管戦で、ベンチの作戦ミスもあり前半値か九点しか得点できず、後半の健闘もむなしく敗れ、三位になりました。

一方女子も京ケ瀬クラブを一蹴し、その勢いで決勝に臨み、BSN杯（高校新人戦）で優勝している新潟商業高校を相手に、前半一ゴールを争う好ゲームを展開し会場を沸かしました。後半になると走力の差がでてき速攻をゆるし得点を重ねられてしまい準優勝ということになりました。



阿部さん



加藤さん

大会終了後、優秀選手の表彰も行われ、女子の阿部明美、加藤久美子の二人が他のチームメンバーと共に選ばれ、表彰されました。

決果は次のとおりです。

準決勝男子
日本鋼管66—31横門クラブ

準決勝女子
横門ク58—32京ケ瀬ク

決勝女子
新潟商高44—29横門クラブ

第六回村民囲碁将棋大会

佐藤朝雄氏（横越）が初優勝

去る二月十二日（日）、公民館において第六回村民囲碁将棋大会を開催しました。

当日は、珠算検定があり、小中学生の参加がいつもより不足でしたが、小、中、一般合せて約三十五名が参加、四時頃まで熱戦がつづきました。

成績は次のとおりです。

○将棋、小、中学生の部
一位　宮嶋　忍
二位　石塚　正浩
三位　宮沢　聡
三位　小杉上
三位　古沢　秀雄
三位　木津中

○将棋、一般の部
一位　佐藤　朝雄　横越中
二位　仲村　聰　二本木中
三位　陸　庄俣　姥山
三位　山田仁之助　横越中
敢闘賞　伝　富男　木津上

○囲碁の部
一位　永井　貞次　横越中
二位　遠海　敏郎　桜橋工
三位　佐藤　清　横越上

定例議会九日

53年度予算等を審議

昭和五十三年度の予算や各条例改正等を審議する三月定例議会は、三月九日開会し下旬まで会期が定められる予定です。

今回提案される最大の議案は、何といっても一般会計予算案で、総額十億六千八百万円の規模を有し重点施策である「生活環境整備」……道路都市計画、農村モデル等。「教育施設整備」……小学校ブール・グランド等。「農業振興」……園芸、畜産振興、水田再編対策等々が盛り込まれている。

会議の初日は村長の施政方針及び提出議案の説明、二日目は村政に対する議員の一般質問が予定されており、又、横越小学校では児童の社会科研究の一環として、三年生約百五十名が議会見学をする予定もあります。

軟式野球審判講習会

参加者募集！

○日時…三月十九日（日）
AM一〇・〇〇〜
PM二・〇〇
○会場…横越農協会館
○内容…映写「川上哲治の野球教室№1№2」
53年度ルール改正の説明
審判のやり方
○講師…県軟式野球連盟公認審判員（予定）
○参加費…五〇〇円（昼食代、資料代）
○申込…三月十六日までに横越村公民館へ
○主催…横越村体育協会
○後援…横越村公民館

およろこび

（1月の結婚）

新郎	新婦	地区
阿部「渡辺」満	洲子	横越下
米山「北見」順	子	小杉上
伊藤「川崎」真	治	横越中
佐枝	子	新津市

おめでた

（1月の出産）

新生児	親名	地区
山田	裕史	昭雄　木津中
大島	信彦	孝信　二本木上
伊藤	由美	一術　横越上
神田	弘樹	美津夫　川根谷内
村田	恵美	博　二本木中
松本	美紀	久雄　沢海中
山崎	恭子	勝彦　二本木中
佐藤	悟	豊栄　沢海下
長谷部	多恵	良則　横越中
湯田	直己	栄　二本木下

おくやみ

（1月の死亡）

故人	年令	地区
雨田　喜一	70	横越下
長瀬ミサヲ	76	小杉上
岩田　シン	82	駒込
渡辺　実	69	二本木中
田中ソヨ	77	横越下
飯倉マサノ	74	姥山